中学校数学科グループ研究会

グループ員：古谷　俊樹（笹原中学校）　長谷　慎一（北中学校）
菅　　剛久（東中学校）　中辻　紘生（西中学校）
松浦　信　（南中学校）　前川　和大（天王寺川中学校）
岡田　友昭（松崎中学校）　谷本　浩一（荒牧中学校）

担当指導主事：村上　大介

キーワード：全国学力・学習状況調査　数学的思考の「見える化」　授業力力向上　ＩＣＴの活用

１　研究テーマ

「活用する力を伸ばす授業の工夫」
　基礎・基本の定着と数学的思考の「見える化」を目指して

２　研究内容

(1) 全国学力・学習状況調査結果分析に基づく授業改善
　① 全国学力・学習状況調査結果分析からの研究
　② ICT の活用研究
　③ 学習環境作りと家庭学習の充実
(2) 数学科教員の資質向上
　① 若手教員の育成
　② 夏季研修
　③ 先進校視察　報告
(3) 小中連携
　① 研究授業における交流
　② 入学前課題の実施
　③ 新入生テストの作成
(4) 研究会の実施内容

第１回	５月25日	年間計画の作成　市内全体会準備　全国学力・学習状況調査
第２回	７月10日	全体会総会で行ったグループ討議内容の確認 夏季研修会役割分担について 夏季研修内容確認
第３回	８月10日	伊丹市数学科夏季研修会 グループ討議「授業力向上に向けて　板書編」 講話「活用する力を育む数学の授業」
第４回	９月６日	全国学力・学習状況調査の結果からの分析
第５回	10月９日	全国学力・学習状況調査の結果からの分析 平成３０年度研究冊子作成
第６回	11月13日	平成３０年度研究冊子作成･修正 新入生テストについて
第７回	12月20日	平成３０年度研究冊子の使用方法確認 新入生テスト分析について（確認）
第８回	１月15日	総会打ち合わせ
第９回	２月28日	新入生テスト最終打ち合わせ 次年度に向けての準備

３　成果と課題

(1) 成果

① 今年度も伊丹市として「全国学力・学習状況調査」のＡ・Ｂ問題について全国平均を上回る結果を得た。昨年度行った『関数』分野に焦点を絞り、市内８中学校でそれぞれ研究授業を行ったことにより、関数分野の各問の正答率は概ね全国平均を上回ることができた。そして、今年度は、全国学力・学習状況調査の問題を利用した各校の授業計画を立て、「主体的･対話的で深い学び」による授業改善から、学力向上への意識を各校で高めることができた。

② 今年度の夏季研修会において、「学力向上のための授業づくり」のために、板書についての研修を行った。ICT の活用や授業者独自の工夫やこだわりなどを紹介し、さらにグループ討議を行うことにより、授業づくりには欠かせない「板書」について深めることができた。

③ 新入生テストにおいて経年比較を視野に入れ､中学校に入学してくる児童の学力状況を測り、各学校において「本校１年生の算数での課題把握」から学力向上のための対策に生かすことができた。

(2) 課題

① 全国算数・数学教育研究大会（和歌山大会）での発表を経て、「協同学習」では効果的な課題の設定やホワイトボードを活用した発表の手法などについての課題が残る。また「ICT の利用」では、学校の環境整備が追いついていないことやそれらの機器に対して効果的な活用ができる教員が少ないといった課題も明らかになっている。今後は、模擬授業を取り入れるなどの研修方法の見直しや若手教員の研修の充実等を進めていく必要がある。

② 「全国学力・学習状況調査」では、今年度も伊丹市は全国平均を上回る結果であった。これは本市数学科としての研究の成果だと捉えている。しかし、アンケートにおいて「数学の授業は好き」「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「数学の授業で学習したことを将来、社会に出たときに役立てる」等の質問項目がこの３年間、全国平均を下回っている。数学の授業で学んだことを普段の生活でどのように活用するかという視点を持って、研究を重ねていく必要がある。

③ 新入生テストにおいて経年比較を視野に入れて実施しているが、結果を分析して「中１ギャップ」の解消に努めなければならない。そのためにも、分析の方法を検討して、各校の新入生が算数から数学へのスムーズな移行ができるように研究していかなければならない。